ロータリーの未来は
あなたの手の中に

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

2009～2010年度
国際ロータリーのテーマ
ロータリーの未来はあなたの手の中に
2009～2010年度
RI会長　ジョン・ケニー

創　　立：1980年(昭和55年)1月10日
会　　長：増田　盛英
幹　　事：高木　　勝
クラブ広報委員長：岩崎　道夫

例　会　日：毎週木曜日 PM12:30～
会　　場：ヒルトン名古屋
事　務　局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
T　E　L：052-211-3803
F　A　X：052-211-2623
M　A　I　L：2760nagoya@mizuho-rc.jp
U　R　L：http://www.mizuho-rc.jp/

故 舘健吾さんを偲ぶ

追 悼 文

2009～2010年度　会長　増田　盛英

舘健吾さん、あなたの62歳と言うあまりにも若いご逝去は、本当に残念でなりません。

あなたのRC暦は古く、28歳の若さで西春日井RCに入会されました。その後、40歳で名古屋瑞穂RCに移籍され、93～94年度は国際奉仕委員長、94～95年度はニース世界大会委員長、95～96年度は国内友好クラブ委員長、97～98年度は会員増強委員長、99～00年度は出席委員長、02～03年度は米山奨学委員長、04～05年度は副会長を歴任され、当クラブに数多くの貢献、功績を残されました。

ここ数年車椅子ではありましたが、12月のクリスマス家族会には奥様とご一緒にお出かけいただいており、今年もお会いできることを楽しみにしておりました。あなたの何となくおっとりしたにこやかな笑みが今でも思い出されてなりません。舘さんと私の思い出は、1993～1994年度の野崎会長のもとで私が幹事をつとめさせていただき、あなたが国際奉仕委員長の時でした。台北延平RCのご子女が名古屋にお越しになられた時に、舘さんと何をしようかと色々相談をして「台湾の人は雪を見たことが無いだろう」と言うことで、富士山方面でスキーをしてもらおうと計画しました。ところが、2月ではありましたが名古屋地方は大雪が降り続き、バスでの移動が不可能となり行くことが出来なくなってしまいました。せっかくの舘さんとの企画が駄目になってしまい、残念な思いをしました。その日は名古屋市内のホテルはどこも満員でした。春日良平さんに何とかお願いをして、かすが荘に泊めていただきました。そして皆で岩風呂に入り、浴衣姿で「すきやき」を食べたときの味は格別でした。私は今でもその時に野崎会長とともにあなたと心一つに協力し合ったことを鮮明に覚えております。

ニースの国際大会では、英語の堪能なあなたは、リーダーシップを発揮され、どれだけ皆さんに安心感を与えたことでしょう。

最後に、舘健吾さんのご冥福をお祈りし、一生懸命介護され一心にご回復を祈っておられた奥様をはじめご遺族の皆様に心よりお悔やみを申し上げます。舘健吾さん、安らかにお眠りください。

岡村　達人

会員の追悼文を書かせていただくのは小畠三郎さん以来ですが、舘家とは小畠さんの会社の協力会社同士で、父の代からのお付き合いです。共に創業者の父が初代社長、2代目が夫人、3代目が私達長男と同じ社歴です。父の代に、晴海での自動車ショーの帰路に飛行機組と鉄道組に分かれました。ところが飛行機は伊豆大島沖で墜落し、全員死亡という惨事に遭い、父達は鉄道組であったため難を逃れる出来事がありました。母親が共に社長時代は、定例麻雀会で色々な事を相談し合ったようです。私達は「健チャン、達チャン」と呼ぶ間柄でしたがお互い責任の無いNO.2時代は、麻雀・ゴルフ・旅行とよく遊びました。私のゴルフ筆卸も大きなコンペで健チャンと同組でラウンドしました。グロスで負けたのはその一度だけでしたが、後に「達チャンにゴルフを教えたのは僕だ」などと言われました。旅行は、伊豆・函館プリンスの北海道・台湾・サイパンのエース旅行・極めつけは親会社のやんちゃな専務発案の欧州視察と名の付く観光接待旅行でした。あまり気の進まない二人は星野監督の仙友会懇親会を口実に三日ばかり早く帰国することとしました。旅中その事を知った専務は立腹され団長の様な立場の人より「どうなっても知らんぞ」と恫喝されました。帰りのファーストクラスのキャビアにウォッカのサービスと、夜食用として持込したふりかけのおにぎりを食べながら悶々とした気分で深酒した事を忘れられません。お互い理に合わないことをこころよしとせず私は顔に出して反意を表し、健チャンはお腹にためるタイプでした。

健チャンがトップになられた頃のタチ製作所は、安全活動では全国に名を知られ最高位の労働大臣賞も受賞されました。当社も刺激されその一歩手前の優秀賞までいきました。「あわてない、あわてない」が口癖で社員全員の地道な活動の成果だと思います。

今年7月中旬、ある総会で夫人のまち歌さんが会社代表で出席され、入院を知り、又その後地下鉄でも偶然お会いしお話をしました。気になり8月7日にお見舞いに伺いましたが、それが最後でした。葬儀でのまち歌さんの喪主挨拶は、すでに経営者の顔での立派な姿でした。拝聴しながら、父金吾氏の葬儀でのボーイスカウト団員による出棺セレモニー、母冶恵さんの葬儀での詰問の方の多さ（健チャンの力でしょう）を思い出し、涙せずにはいられませんでした。ご冥福を心よりお祈りいたします。

▲ 福岡西ロータリークラブと

天野　正明

館君へ

館君、永い間お疲れさま、そして楽しい思い出を沢山有難う。

30年近いお付き合いでしたね。君が委員長、私が副委員長としてJCで出会いましたが、最初に会った時、何故か僕の一方的な議論になってしまい、君は何も云わず聞き役に徹してくれました。考えてみれば、初対面で大変失礼なことでした。衝撃的な出会いだったとよく言っていましたね。この一件で忽ち僕に責任が生じてしまい、一生懸命委員会活動をやる羽目になったことを思い出します。こんな風に、君には相手を引き寄せ、やる気を起こさせてしまう不思議な魅力、包容力が備わっている一方、ご自分はどこまでもオットリとして我が道を行く大人でした。静かで、いつもニコニコ、実にゆっくりマイペース。そして人を傷つけない優しさと心配りがありましたね。自信に溢れ、JC、RCは勿論、仕事でも成功一途の人でした。唯、内心を決して吐露しない辛抱強い性格が、時として君を苦しめたのではないかと思います。友人といえども近づけない孤独、反骨が病を招いたのではなかったかと思うところもあります。でもそこは見事に、そして充分にまち歌夫人とお二人のお嬢様がカバーされて幸せな家庭生活、思い通りの人生だっただろうと羨ましく思います。天国からご家族を導いてあげてください。心から貴君のご冥福を祈ります。

▶ マルチプル・フェロー授与

▲ 1991年クリスマス家族会

稲葉　　徹

館健吾さんのご逝去を悼み謹んでここにお別れの言葉を捧げます。私の中での館さんは、右手で煙草をくゆらせ目を細めて左手でウイスキーの水割り（必ずダブル）を美味しそうに飲んでいるダンディな姿です。初めてお会いしたのは、今から二十数年前です。名古屋での世界会議誘致のため、日本JC国際室長として奔走されており、私は日本JC財政特別委員会に出向していた時と記憶しております。当クラブに入会するに際し、推薦人になっていただきました。その後、館さん、天野さん、私の三人の付き合いが始まった次第です。2月4日の立春の日の伊勢神宮参拝、三家族でのヨガの実践、そしてその後の深夜までの語らいなどを通して数限りない想い出が走馬燈の様に浮かんできます。

ロータリーの想い出は、五年前に大島会長のもと、館さんが副会長として週一度の会長代理の挨拶を立派に遂行されたことです。そしてロータリーの「四つのテスト」を常に公私ともに実践されていたことはロータリアンの鑑であるといえましょう。又、彼は外観上は威風堂々としてどっしりとしておられましたが、実際は大変繊細な神経の持ち主であり、気配りもさることながら大変心の温かいお人柄でした。昨年の12月、私の還暦を祝っていただきましたことは、療養中でありながら、ご自分より人のことを気遣うという館さんの人柄にふれることができ、私にとって一生忘れられない想い出となりました。

最後に、ここ数年間にわたる手厚い看護をされ一日も早いご回復を願っておられた奥様のまち歌様をはじめ二人のお嬢様の献身的な看護に対し衷心より敬意を表する次第です。

館さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌。